



日刊 動労千葉

79.7.27
No. 183

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電二二五八・九(公衆電話)七二七)

動労千葉 サークル協 結成さる!

サークル活動の活発化を通じて、より一層の団結を!

動労千葉サークル協結成総会は、七月二四日一三時より動力車会館において、千葉本部運営委員をはじめ、各支部・各連盟代議員約二〇名が出席して開催された。この結成総会は、「動労本部」反動集団による執拗な組織破壊攻撃を一つ一つ粉砕し、着実な前進の上でかちとられたものである。この結成総会の成功をもって、さらに一層サークル活動を強力に展開し、動労千葉一四〇〇組合員・家族の団結を打ち固めよう。

結成総会は、林事務局長の開会のことばではじまり、議長に篠塚運営委員を選出し動労千葉執行部を代表して水野組織部長より次のようなあいさつを受けた。
「『動労本部』側は、昨日(二三日)午後三時、東京地裁に対し動労千葉現執行部全員を相手どり、昨年一二月以降二月までの組合費請求訴訟を起した。
ついに、革マル反動集団は、動労千葉破壊のために公然と権力の手をかりようとしている。しかし、彼らがいままでいっていた『組合費』問題がいかにデマでありベテンであるかがこの訴訟で逆にはっきりした。
現に起っている全国的な流動化状況をもって全国大会を契機にさらに一層『本部』革マル反動集団を追い詰め、動労大改革を推し進めよう。銚子・佐倉両支部結成についてはとりくみを強めている。動労千葉サークル協も、本日の結成総会をもって、より一層活動を展開してほしい」
続いて執行部より、活動方針、暫定予算、規約制定についてそれぞれ提案があり、若干の質疑討論を行ない、満場一致で執行部提案を可決決定した。そして最後に役員については、現役員が次期定期総会まで就任することが確認された。

サークル活動を一層定着化し、動労千葉の団結強化をかちとろう!
未だ、佐倉・銚子両支部が未結成という状況であるが、現実のサークル活動においては、ソフトボール大会、野球大会などに有志の参加をかちとり、交流を深めている。
こうした実績の上で、動労千葉サークル協の結成総会がかちとられたのである。
そして、今後共、各支部間の交流・親睦を深め、動労千葉一四〇〇の団結強化をかちとり「本部」革マル反動集団をさらに追いつめる闘いを全国の仲間と共に闘い抜こう。

方 軍需産業・大独占には無制限に近い巨額の国家財源が惜しみなく投入され、汚職・金権政治は頂点を極めた。
三井・三菱・住友など独占資本は、造船・自動車・航空機等、重化学・軍需産業部門を一手に握り、民需生活物資生産部門の圧迫・倒産・軍需産業下請化の中で農村の疲弊、都市の窮乏化の上にあぐらをかいて、日本とアジアの民衆の血を吸い肥え太っていった。(死の商人)
一九三七年の大弾圧を起点として労働組合が次々と解体させられ、一九四〇年庄倒の大衆を組織した「産報運動」は、この戦時体制の最大の推進役だったのであり、農民・労働者はそのもとに動員され、戦争の片棒をかき、すべての犠牲をこうむったのである。

産報運動と労働運動の危機(四)

(四) 軍事経済を支えた産報運動
戦争という「至上命令」のもとで経済は軍事一色に塗りつぶされ、戦争財政の展開とともに諸物価は一齐に上がりインフレは激しさを加えた。武器・弾薬など軍需資材の購入のための臨時軍事費が急速に膨張した事がその大きな要因である。(表一)
こうして支出が急激に増加したが、国家財政の収入は頭打ちになっていた。政府は「赤字公債」を大量に発行してこれをまかなおうとし、日銀に引受けさせたので、それに伴ない日銀券の流通量が急増し、インフレはますます激化した。物資不足・物価騰貴、闇物資・「ヤミ値」の横行など賃金凍結(「実質賃金切り下げ」との板ばさみ)の中で民衆の生活は困窮にあえいでいた。(表二)

民衆に向って徹定した節約運動を強制する一

参加しよう!
● 7・28 国民大集会 (17時30分・千葉市民会館)
● 7・29 石川氏奪還・千葉刑糾弾・狭山総決起集会 (14時・千葉市本町公園)

表 1. 国家財政歳出と軍事費 (単位百万円)

	1937年	1940年
財政総額	11,230	15,614
臨時軍事費(財政総額比)	2,034(18.1%)	5,722(36.6%)
直接軍事費()	3,278(29.2%)	7,947(50.9%)

表 2. 関連する経済指標 (1937年=100)

国債発行残高	10,585	27,008(255.2)
日銀券流通高	2,080	4,452(214.0)
小売物価指数(1936年=100)	109.5	163.1
重化学工業生産額	8,959	17,079(190.6)
軽工業生産額	7,396	10,073(136.2)